

毒島誠が痛恨のF2 来期はB2級へ降格

昨年のMVP男・毒島誠が大ピンチ。5月28日の丸亀オールスター2日目11Rで3コースから1本目のFを切った後、地元桐生周年優出5着をはさんで6月17日からの平和島一般戦に登場。2日目3Rでピット離れで奪ったインからあまりにも代償が大きい今期2本目のFを切ってしまった。

毒島の今期の出走回数は戸田グランチャンを終えた時点で40走。7月はびわこのボートレース甲子園と徳山オーシャンカップの2節しかあつせんが入っておらず、7月28日から10月25日まで90日のF休み

みを一気に消化。事故点は1本目のFで20点、2本目のFが30点の



合計50点。事故率が0・70を下回るには最低でも72走しなければならぬが、それは不可能。ということで事故率オーバーによる来期(来年1月から6月)のB2級降格が確定的になってしまった。

ただ、8月の若松メモリアル、10月の津ダービーはF休みで不参加だが、現在の獲得賞金は約5372万円。順位も7位につけており、11月の福岡チャレンジカップでSG復帰の可能性は高く(昨年のボーダーは4525万円)、ここで勝負駆けが成功すればグランプリ出場の可能性はある。

グランプリに出場できて優出すれば、来年のSG優先出場権が手に入る。これさえあればF休みにかからない限り、実はB2級でもダービーまでの全てのSGには出場が可能。前例がなかったただでルール上はそうっており、毒島誠にとってグランプリ出場とグランプリ優出が来年の走る舞台の力を握る。

ただし、1月からB2級になってしまつと、4月までは月一あつせんになつてしまつので、A1級の最低出走回数の90走がクリアできるとは微妙なところ。A1級復帰は2年後の1月になるかもしれない。

毒島誠はトップレーサーの中でもFが少ない選手で、通算Fはキヤリア22年で24本。15年10月のFを最後に5年間無事故だった期間もあり、13年7月のオーシャンカップから22年10月の常滑ダービーまで、SGを75大会連続出場とい

う大記録も達成しているほど。一般戦で2本目のFはもつたいたいと思ふ反面、どんなレースでも全力を尽くしている裏返しでもある。

ただ、2本目のFを切った平和島は現在、スタンド工事中でスタンドの一部が壊されている状況で、イレギュラーな風が吹くことが多いという話も聞かえてくる。その気まぐれな風が毒島誠のスタート勘を狂わせてしまったのかもしれない。

なお、今期のF2第1号は桂林寛で、2人目が三村岳人。毒島誠は今期3人目のF2だった。今期から2本目のFの事故点が30点に増えたことの影響も小さくない。期の早いうちにF2になつてしまつと、特に記念常連クラスの選手は事故率オーバーによるB2級降格がほぼ確定的になる状況だ。

佐藤隆太郎がSG連覇 獲得賞金も1億円超え

3月の若松クラシックでSG初優勝の佐藤隆太郎が、5月の丸亀オールスターも優勝し、史上20人目となるSG連覇の偉業を達成した。初制覇からの連覇は倉田栄一、野中和夫(3連覇)、西田靖に続く34年ぶりで4人目。また、96年以降で予選1位からのSG連覇は17年のオールスターとグラチャンを連覇した石野貴之以来になる。

佐藤はGIの優出こそ4回あるがまだ優勝はなく、GI未制覇の

MACOUR
TOPICS

TOPICS

マクール トピックス

まず先にSGを2回優勝。これは原田順一、山崎智也、馬場貴也以来で4人目。

また、オールスター制覇で今年の獲得賞金も早々と1億円を突破したが、これは歴代でも3位のス皮ード記録。史上最速は04年5月18日に突破した今村豊さん。2位の服部幸男は95年にクラシックとオールスターを連覇しての1億円到達だったが、今村さんはオールスター前の到達だったので、今後絶対に破られない記録かもしれない。佐藤はこの2人に続く3番目の早さで、97年6月5日に到達した植木通彦さんを上回った。

佐藤は戸田グラチャンにも出場し、野中和夫、西島義則に続く3人目のSG3連覇に挑んだが、4日目の2走16点の勝負駆けに失敗して予選落ちした。

なお、佐藤の徳山オーシャンカップは選考期間内にGIの優出が1回(2月戸田関東地区選3着)しかなく、ボーダーに3点足りずに落選。10月の津ダービーも選考順位は100位前後あたりで出場できない可能性が高い。

戸田グラチャンは地元埼玉勢が3人優出の活躍

池田浩二の優勝で幕を閉じた戸田グラチャンは地元埼玉勢が3人出場し、3人とも優出する大活躍を見た。戸田に限らずSG優勝戦に埼玉勢が3人同時優出は史上初でもあるのだが、そもそも地元

表1 SGにおける地元選手の優出と優勝人数

年	優出	優勝	年	優出	優勝
2000年	5人	3人	2013年	4人	なし
2001年	5人	1人	2014年	7人	2人
2002年	10人	3人	2015年	4人	なし
2003年	7人	2人	2016年	5人	1人
2004年	8人	3人	2017年	6人	なし
2005年	4人	1人	2018年	6人	1人
2006年	4人	3人	2019年	6人	1人
2007年	8人	2人	2020年	5人	1人
2008年	7人	2人	2021年	5人	なし
2009年	10人	3人	2022年	4人	なし
2010年	5人	なし	2023年	5人	1人
2011年	11人	1人	2024年	5人	1人
2012年	10人	1人	2025年	6人	なし

選手が地元SGで3人同時に優出したこと自体が、12年5月の浜名湖オールスターの静岡勢(菊地孝平2着、渡邊英児3着、坪井康晴4着)以来、実に12年1か月ぶりのこと。11年の福岡メモリアルでは峰竜太以外の5人が地元福岡勢(優勝は瓜生正義で篠崎元志3着、藤丸光一4着、岡崎恭裕と出畑孝典はF)なんてこともあったが、これは異例中の異例だった。

SGともなると地元勢が活躍するイメージがあるが、実際は真逆。別表は00年以降のSGにおける地元選手の優出、優勝人数。GPシリーズを含めるとSGは年間9大会もあるのだが、最多の11年でも優出は11人。13年以降は最多でも7人でだいたい4人から6人で推移している。

優出がこれだけ少ないと優勝ももちろん少ない。地元SG優勝がなかった10年以降では14年だけ菊地孝平と仲口博崇の2人が地元で

優勝したが、これ以降の地元優勝は年に1人出るか出ないか。また、昨年の戸田ダービーでは桐生順平と佐藤翼が地元ワンツーを決めたが、これも09年常滑チャレンジカップの原田幸哉、池田浩二以来で実に15年ぶり非常に珍しいことだった。

ちなみに戸田では06年のオールスターで地元勢が大挙12人も出場したことがあった。6人が予選を突破し、池上裕次と鈴木賢一は準優1号艇だったものの、池上は4着、鈴木はFに散り、結局誰も優出できず、山崎智也が優勝した。

島村隆幸がSG準優でF

5月31日の丸亀オールスター準優10Rで、島村隆幸が6コースか



らコンマ01のFを切った。SG準優におけるFの罰則規定は1年間のSG出場停止と半年間のGI・GII出場停止。島村は出場が決まっていた戸田グラチャン、徳山オーシャンカップの出場も取り消しになったうえで、来年5月のオールスターまでSGに出場できない。GI・GIIの復帰も来年3月以降になる。

罰則規定が強化されて以降のSG準優におけるFは昨年の多摩川オールスターの守屋美穂以来で3人目だが、菊地孝平はSG準優と同じ扱いとされるグランプリのトライアルでのFがある。

島村は準優6号艇ということもあり、チルト3度でレースに挑んでいた。同じ支部の菅章哉がいたのでアドバイスをもらったのかも。昨年8月の芦屋周年優勝戦ではチルト2度にしたことはあるが、過去にチルト3度で走ったレースは見当たらなかった。スタートが難しく、アジャストした意味がないと言われるチルト3度での挑戦が裏目に出てしまった。スリット後かなり下がっていたのでアジャストはしたようだが、間に合わなかったようだ。

なお、島村の罰則規定ありのFは初めて。

守屋美穂がGI、SGに復帰

昨年4月の児島周年準優と5月の多摩川オールスター準優で立て

続けに罰則規定ありのFを切つてしまい、SG、GI、GII戦線を行なかつた守屋美穂が、8月6日からの浜名湖レディースチャンピオンでGI戦に復帰。さらに8月の若松メモリアルには児島代表で選出されてSG復帰も決定。9月にはびわこ周年のあっせんも入った。

さらに付け加えるなら10月の津ダービーも出場圏内につけており、締め切りまでの残り2節（鳴門一般戦と戸田ヴィーナス）で勝負駆け中でもある。

守屋が最後に走ったSGはFを切った多摩川オールスター。GIは昨年5月30日からの戸田周年だったので、SGは1年3か月ぶり、GIは1年2か月ぶりの復帰となる。



表2 SG3連単高額配当ベスト10

順位	配当	場	タイトル	年月日	レース	R	出目	人気	的中	1着	2着	3着
1	30万4770円	常滑	オーシャン	2019/7/10	予選	10	632	116	326票	濱野谷憲吾	田村 隆信	徳増 秀樹
2	27万2530円	丸亀	オールスター	2025/6/1	選抜	10	642	111	888票	河合 佑樹	守田 俊介	佐藤 翼
3	25万5150円	福岡	メモリアル	2023/8/27	選抜	11	625	117	987票	石渡 鉄兵	大峯 豊	西山 貴浩
4	25万2220円	住之江	GPシリーズ	2016/12/25	一般	5	652	120	395票	伊藤 将吉	遠藤 エミ	丸岡 正典
5	21万4760円	常滑	オーシャン	2019/7/14	一般	6	652	120	431票	松尾 拓	山本 寛久	今垣光太郎
6	19万9840円	福岡	オールスター	2009/5/30	一般	7	652	116	549票	佐々木裕美	魚谷 智之	平石 和男
7	19万3670円	徳山	グラチャン	2018/6/23	準優	10	642	120	972票	桐生 順平	長田 頼宗	重成 一人
8	18万9850円	大村	メモリアル	2019/8/29	予選	6	632	119	469票	太田 和美	重成 一人	今村 豊
9	17万7760円	桐生	チャレンジC	2019/11/21	予選	10	654	117	661票	魚谷 智之	大山 千広	稲田 浩二
10	17万2420円	若松	オールスター	2021/5/28	予選	7	623	112	874票	永井 彪也	秋山 直之	太田 和美

オールスターでSG
2番目の高額配当

5月末から6月にかけて次の2選手が引退した。

貞兼淳二（福岡74期52歳）
富田 祥（香川123期28歳）

貞兼淳二さんは守田俊介らと同期で94年5月に若松でデビュー。5期目にA2級、6期目にはA1級に昇格しており、A1級には15期ほど昇格。自己最高勝率は01年後期の7・02。SG出場はなかったもののGIには何節か参戦しており、唯一の優出は峰竜太がGI初優勝した09年1月の芦屋九州ダービー（5着）。

通算成績は出走回数6951走で勝率5・74、1258勝、優出129回、優勝14回。生涯獲得賞金は約6億181万円。現役最後のレースは5月18日の蒲郡。

今月の引退選手

6月1日の丸亀オールスター最終日10Rの特別選抜戦ではSG史上2番目の高額配当となる27万2530円が飛び出した。2連単も30番人気の5万120円。

立役者になったのは河合佑樹。4カドの守田俊介がまくり攻めに当たるところを6コースから見事な全速まくり差して突き抜けた。2着は守田が佐藤翼に競り勝って確保。614の中では2番目に安い配当だったが、もし4着の羽野直也が3着だったならその配当は30万5500円に跳ね上がり、SG最高配当になるところだった。

富田祥さんは前田滉らと同期で18年11月に丸亀でデビュー。実働は6年半だった。出走回数594走で17勝、優出はなし。4期通算勝率による引退勧告が凍結中ではあるものの、事実上、4期通算の事故率オーバーによる引退。通算Fは12本でF2も2期だけだが、23年の年間4本のFが響いた。前期も事故率が1点を超えており、「魔の8項」にも抵触していた。現



富田 祥



貞兼淳二

役最後のレースは5月12日の徳山。

森貴洋、日笠勝弘が 周回誤認

5月は立て続けに周回誤認が2件発生した。1件目は5月23日の江戸川一般戦初日1R。3着争いをしていて日笠勝弘が3周ホームを通過後に上体を起こして減速し、3周1マークを低速で旋回。後続の選手に並ばれてから通常の航走状態に復帰して4着でゴール。「信号確認を怠り、ゴールラインを通過したと思い込んだ」と本人は周回誤認を認めた。

2件目は5月30日のびわこ一般戦2日目10R。3番手を走っていた森貴洋が3周ホーム通過後に上体を起こして3周1マークも上体を起こしたまま旋回。4番手の選手が接近したことで上体を伏せそのまま通常の航走に戻り、3着を守ってゴールした。こちらも本人は「ゴールインしたと思った」と周回誤認を認めている。

両者には次回の褒賞懲戒審議会で4か月の出場停止処分が下されそう。

今月の水神祭

(初勝利)

6月17日 牧村俊輝(愛知134期)
6月17日 中嶋世奈(静岡134期)

6月19日 香月大輝(福岡134期)
6月27日 谷海夏人(広島136期)
(SG初勝利)

5月30日 清水愛海(山口127期)
5月31日 中村日向(香川122期)
5月31日 川井 萌(静岡127期)
(初優勝)

6月19日 植田太一(福岡109期)

5月にデビューした136期の水神祭第1号は父が谷勝幸で2世レーサーの谷海夏人。3節目の尼崎一般戦3日目1Rで6コースからのまくり勝ち。2、3着が人気選手だったこともあるが、3連単は1万5500円で大穴ではなかったことも値打ちがある。

デビュー2年目に突入した134期からは一気に3人。牧村俊輝は江戸川一般戦の最終日1Rで4コースからまくり勝ち。中嶋世奈は地元浜名湖のオールレディース5日目4Rで4コースからのまくり差し。3連単は22万円台の大穴を提供した。父が香月大介の香月大輝は丸亀一般戦2日目1Rで4コースからコンマ01のスタートでまくり勝ち。中嶋以外の2人は3連単で1万5千円台とそこまで高くない配当だった。134期の未勝利選手は残り9人にまで減っている。

丸亀オールスターでは2回目のSG出場だった地元の中村日向とSG初出場だった清水愛海、川井萌の127期コンビが水神祭。SG未勝利だった3人がきっちり初勝利を飾った。

初優勝の植田太一は23回目の優



谷海夏人



中村日向

出だった住之江一般戦で3コースからのツケマイ勝ち。準完全Vに王手をかけていた地元の上條暢高のイン戦を見事に沈め、3連単も11万円台の大穴になった。丸野一樹らの109期では9人目の優勝者。



清水愛海・川井萌

年間タイトル争い

最高勝率争いに異変が起こっている。過去10年で9回タイトルを手にしている峰竜太が7・91で実は7位。昨年7位だった茅原悠紀が2位の中辻崇人に大差をつけてトップを独走している。近況の充実ぶりから茅原が大きく勝率を落とすことは考えられず、このままタイトルを獲得する可能性は高いのではないだろうか。

最多勝利は今年V6と好調な濱崎直矢がトップ。そしてここでも茅原悠紀が2位。濱崎は7月にF休みがあるので、こちらのタイトルは混戦ムード。なお、5位タイの守屋美穂はFの罰則規定期間の成績は除外されるというルールがあるのが表彰の対象外。

130期以降で争う最優秀新人は勝率と1着回数で石本裕武がト

表8 ダービー出場争い

順	登番	選手名	支部	勝率
前V	4444	桐生 順平	埼玉	8.14
優先出場	4418	茅原 悠紀	岡山	8.56
	3941	池田 浩二	愛知	8.02
	4851	関 浩哉	群馬	7.60
	4262	馬場 貴也	滋賀	7.15
直前SG(メモリアル)優勝者				
7	4320	峰 竜太	佐賀	8.16
8	4504	前田 将太	福岡	7.71
9	4914	吉田 裕平	愛知	7.71
10	4503	上野真之介	佐賀	7.59
11	4500	山田 康二	佐賀	7.58
12	4573	佐藤 翼	埼玉	7.55
13	3623	深川 真二	佐賀	7.49
14	4344	新田 雄史	三重	7.48
15	5084	末永 和也	佐賀	7.46
16	4760	山崎 郡	大阪	7.45
17	3897	白井 英治	山口	7.40
18	3721	守田 俊介	滋賀	7.37
19	4324	海野康志郎	山口	7.35
20	4205	山口 剛	広島	7.34
21	4188	久田 敏之	群馬	7.32
22	3159	江口 晃生	群馬	7.32
23	4848	仲谷 颯仁	福岡	7.30
24	3388	今垣光太郎	福井	7.29
25	4019	笠原 亮	静岡	7.28
26	4535	北山 康介	東京	7.27
27	4544	松田大志郎	福岡	7.25
28	4050	田口 節子	岡山	7.25
29	4166	吉田 拓郎	岡山	7.24
30	4208	三浦 永理	静岡	7.22
31	4371	西山 貴浩	福岡	7.22
32	4061	萩原 秀哉	福井	7.21
33	4547	中田 竜太	埼玉	7.21
34	3737	上平 真二	広島	7.21
35	4566	塩田 北斗	福岡	7.20
36	4362	土屋 智則	群馬	7.20
37	4762	藤原啓史朗	岡山	7.19
38	3719	辻 栄蔵	広島	7.19
39	4719	上條 暢嵩	大阪	7.18
40	3779	原田 幸哉	長崎	7.18
41	4482	守屋 美穂	岡山	7.16
42	3946	赤岩 善生	愛知	7.15
43	4604	岩瀬 裕亮	愛知	7.15
44	4256	渡辺 浩司	福岡	7.15
45	4445	宮地 元輝	佐賀	7.15
46	4450	平高 奈菜	香川	7.15
47	4571	菅 章哉	徳島	7.15
48	4357	田中 和也	大阪	7.15
49	3898	平田 忠則	福岡	7.13
50	4959	井上 忠政	大阪	7.13
51	4350	篠崎 元志	福岡	7.12
52	4236	松村 敏	福岡	7.12
53	3532	柴田 光	群馬	7.12
54	4305	金子 拓矢	群馬	7.12
55	4427	秦 英悟	大阪	7.11
56	4397	西村 拓也	大阪	7.10
57	5121	定松 勇樹	佐賀	7.10
58	4686	丸野 一樹	滋賀	7.08
59	5217	藤原 碧生	岡山	7.08
60	5043	中村 日向	香川	7.08
61	4502	遠藤 エミ	滋賀	7.06
62	4932	新開 航	福岡	7.06
63	4907	小池 修平	大阪	7.06
64	4682	大上 卓人	広島	7.05
65	4288	永田 啓二	福岡	7.05
66	4024	井口 佳典	三重	7.05
67	4586	磯部 誠	愛知	7.05
68	4237	大峯 豊	山口	7.03
69	3854	吉川 元浩	兵庫	7.03
70	4013	中島 孝平	福井	7.03

SG連覇の佐藤隆太郎は1億円オーバーで悠々のトップ。グラチャン制覇の池田浩二が2位に浮上した。オールスター、グラチャンとSGで連続優勝の桐生順平と峰竜太も大きくジャンプアップ。SGが絡まないところでは桐生周年制覇の新田雄史も順位をかなり上げてきた。

女子は平高奈菜がトップ独走中ながら、2位に浮上の遠藤エミが500万円差まで迫っている。川井萌、實森美祐、宇野弥生、西橋奈末も順位を上げた。

獲得賞金ランキング

ツブなのだが、今年はまだ優勝がない。対象選手で優勝しているのは西丸侑太郎だけ、それも2回という状況で、西丸は獲得賞金でも現在トップ。現状では西丸の方が圧倒的に有利な立場にいるが、いずれにせよ今年後半に大ブレイクする新人が出現しない限り、この2人の争いが濃厚だろう。

表3-2 女子獲得賞金ベスト30 表3-1 獲得賞金ベスト30

順	選手名	獲得賞金額
1	平高 奈菜	32,824,065
2	遠藤 エミ	27,490,332
3	浜田亜理沙	25,024,000
4	川井 萌	22,129,089
5	守屋 美穂	21,938,532
6	川野 芽唯	21,725,000
7	實森 美祐	19,986,066
8	細川 裕子	19,648,813
9	渡邊 優美	19,077,000
10	宇野 弥生	18,528,066
11	西橋 奈末	18,463,666
12	寺田 千恵	17,967,200
13	三浦 永理	17,568,546
14	小野 生奈	17,133,000
15	関野 文	16,076,000
16	清埜 翔子	15,986,000
17	大瀧明日香	15,490,479
18	勝浦 真帆	15,390,066
19	海野ゆかり	15,339,000
20	平山 智加	15,252,733
21	山口真喜子	15,096,400
22	田口 節子	14,944,200
23	山川美由紀	14,854,733
24	岩崎 芳美	14,784,000
25	廣中智紗衣	13,850,160
26	平田さやか	13,841,626
27	高橋 四季	13,763,999
28	今井 美亜	13,707,066
29	高田ひかる	13,701,023
30	清水 愛海	13,652,000

順	選手名	獲得賞金額
1	佐藤隆太郎	113,899,533
2	池田 浩二	85,424,533
3	茅原 悠紀	76,211,000
4	桐生 順平	66,973,666
5	宮地 元輝	61,305,466
6	峰 竜太	58,929,666
7	毒島 誠	53,721,000
8	磯部 誠	51,783,546
9	新田 雄史	48,021,837
10	上條 暢嵩	47,991,666
11	佐藤 翼	47,415,000
12	山田 康二	43,308,000
13	丸野 一樹	43,158,000
14	篠崎 元志	42,486,466
15	井口 佳典	42,059,756
16	馬場 貴也	41,116,000
17	菅 章哉	40,410,733
18	片岡 雅裕	40,354,733
19	山口 剛	40,292,666
20	土屋 智則	40,126,000
21	塩田 北斗	39,430,854
22	原田 幸哉	38,983,000
23	石渡 鉄兵	38,315,000
24	吉田 拓郎	37,945,000
25	西山 貴浩	37,707,466
26	末永 和也	37,426,666
27	中田 竜太	36,832,000
28	平本 真之	34,920,546
29	上野真之介	34,427,632
30	森高 一真	34,253,466

津ダービー選考順位

10月21日から津で開催されるダービーの選考締め切りは今月いっぱい。昨年のボーダーは7・15だったが、グラチャン終了の6月29日時点でのボーダーは昨年より少し低い7・12となっている。

優先権がある毒島誠はF休みで欠場が決まっているほか、勝率上位でありながら出走回数不足によるA2級降格のため中辻崇人と権藤俊光は選考除外。菊地孝平もまだSG出場停止期間が明けていない。

地元三重勢は新田雄史が孤軍奮闘。井口佳典はボーダーより少し下の66位で7月はメイチの勝負駆けになる。女子は田口節子、三浦

表4 年間勝率

	優出	優勝
1	茅原 悠紀	8.65 11 5
2	中辻 崇人	8.15 8 6
3	新田 雄史	8.07 10 7
4	桐生 順平	8.03 11 3
5	池田 浩二	7.97 9 2

表6 年間最多勝利

	優出	優勝
1	濱崎 直矢	71 9 6
2	茅原 悠紀	63 11 5
3	徳増 秀樹	62 9 5
4	中辻 崇人	60 8 6
5	守屋 美穂	58 9 3
5	井上 一輝	58 7 1

表5 女子年間勝率

	優出	優勝
1	守屋 美穂	7.38 9 3
2	平高 奈菜	7.31 5 2
3	田口 節子	7.14 5 1
4	渡邊 優美	7.07 3 1
5	西橋 奈末	6.99 4 2

表7 新人年間勝率

	優出	優勝
1	石本 裕武	6.52 3 0
2	中山 翔太	6.34 2 0
3	田中 駿兵	6.27 1 0
4	西丸侑太郎	6.26 4 2
5	大島隆乃介	5.78 1 0

6月29日現在

永理、守屋美穂、平高奈菜が圏内で遠藤エミは勝負駆け。また、今年で53歳のベテラン柴田光は53位でSG初出場へ向けて勝負駆け中。53歳でSG初出場となれば、名人戦優勝により55歳で13年の平和島クラシック出場を果たした井川正人に続く2番目の最年長SG初出場となる。